八瀬の里人はいにしへの風俗ありて、男も女のごとく髪をくるくると髷、女も男の様に脛高くからげ、脚半は向ふのかたにて合せ、草鞋の爪先の紐異なるは故ある事にや。

氏神天満宮の鳥居のまへに辨慶の背競石とて高さ八尺ばかりの石有。叡山西塔よりここに提来るといひ伝へ侍る。鬼が洞といふは此里の西の方に有。昔叡山の悪児鬼同丸といふ者住しとなり。羅山文集には酒顛童子の洞と称しけるとなん書り。